

令和5年度 第2回 宝塚市立図書館協議会会議録

日 時：令和5年11月17日(金) 13時15分～16時00分

場 所：中央図書館研修室

出席者：委員 上野委員、今北委員、林委員、藤井委員、三浦委員

(欠席：神崎委員、山崎委員、細田委員、谷内委員)

市 永尾中央図書館長、上木西図書館長、近藤中央図書館係長、花村中央図書館係長、藤野西図書館係長、藏野西図書館係長、西川中央図書館職員

【会議内容】

13時15分～14時25分 中山台分室視察

(永尾中央図書館長)

本日は公私ご多忙の時期にも関わりませず、図書館協議会にご出席賜り、厚く御礼申し上げます。
事務局から、本日の協議会の委員の出席状況について報告いたします。

(西川中央図書館職員)

協議会規則第4条第2項に規定しています定足数につきましては、9名中5名が出席いただいております、過半数を超えていますので、本日の協議会が成立していることをご報告いたします。

(永尾中央図書館長)

それでは、議事に入ります。議長は前回と同様、上野委員長にお願いします。

(上野委員長)

(傍聴者なし)

議長を務めます上野でございます。どうぞよろしくお願いします。

まず「2(1)中山台分室について」を議題とします。中山台分室についてのご意見、ご感想、ご提案などをお願いします。まず林委員をお願いします。

(林委員)

景色もさることながら、(立地が)かなり上の方にあるので、あの地域の方にとって、分室は貴重なものではないかと思いました。絵本のコーナーを見ましたが、窓にも絵本の絵が飾ってあって楽しい本があるのだなということが一目で分かるようになっていたことが印象に残りました。

(藤井委員)

返却ポストの場所が気になりました。宝塚の返却ポストは駅にないのでしょうか。

(永尾中央図書館長)

駅そのものにはありませんが、駅近くにはあります。ポストを外に置いているところもあります。

(藤井委員)

そのことは年報に載っていますか。

(永尾中央図書館長)

年報ではなく利用案内などに載せています。

(藤井委員)

ホームページには掲載されていますか。

(永尾中央図書館長)

はい。「返却できるところ」という形で載せています。

(藤井委員)

中山台分室のような立地のところは、あまり見たことがありません。坂の昇り降りがあって高齢になると大変だとも思いました。勤めの方は返却できないし、車で行って、わざわざ返すだけというのもどうかと思うし、複数個所のブックポストがあればと思いましたが、今後は、本の配達も必要かと思いましたが、そこまでやることもどうかとも思います。トンネルの近くに大きな団地がありました、そこも宝塚市でBM車が行っていますか。

(永尾中央図書館長)

はい。

(藤井委員)

大阪市では2台BM車が行っているところもあります。3,000冊くらい捌けるようです。中山台分室については、今後、配達なども考えていく必要があるかもしれません。また、大阪府域でもBM車が減ってきていますが、宝塚では維持していただきたい。

(三浦委員)

今回、初めて、中山台分室に行きましたが、いい意味で分室らしくないと言いますか、ちゃんとした図書館だなと感じました。山本南は狭いという感じですが、中山台は、手塚治虫の特設コーナーがあったり、とても居心地がいい場所だなと感じました。私は車を使わないので、電車に乗って利用する立地ではないとは感じました。利用者呼び込むというよりは、近くにお住まいの方が日常の中で使う図書館だなと感じました。そういう意味では、イベントよりも本の充実がより求められる図書館と思えました。

(上野委員長)

中山台分室は108㎡しかないとお聞きしましたが、とても広く感じられました。書架がいっぱいに置かれているからだわかりましたが、腰かけて本を読むことができないのは、高齢の方には厳しいかなとも感じました。出窓が有効に活用されていたのは良かったです。床のフローリングも美しく、全体的に清潔感がありました。ブックポストは位置の関係で、有効に使われていないのではないかと思います。

それでは、次に、「(2)「宝塚市子どもの読書活動推進計画(第4期)」について」を議題とさせていただきます。事務局から、ご説明をお願いします。

(上木西図書館長)

計画案を事前に送付し、既にご意見も多数いただいておりますが、改めて計画案の概要を簡単に説明します。子どもの読書活動推進計画は、子どもの読書活動推進に関する法律に市町村計画の策定の努力義務が規定されており、本市では、平成20年度に第1期計画、25年度に第2期計画、30年度に第3期計画を策定し、子どもの読書活動を推進してきました。なお、※に記載がありますように、第3期計画につきましては、コロナ禍による事業の中止や縮小を踏まえまして、計画期間を1年延長し、令和5年度までとしています。計画の基本目標につきましては、第3期計画から踏襲していますが、目標を分かりやすく説明するために、「伝えよう読書の楽しさ 支えよう子どもの読書」を新たにスローガンとして設定しました。基本方針についても、第3期計画を踏襲していますが、主な変更点としては、15頁の「計画の基本方針」の順番を入れ替え、「啓発」を一番目としました。この理由としては、例えば、図書館の施設整備に関しては、西谷ふれあい夢プラザ内の「ふれ愛ライブラリー」の開設、小浜・安倉

分室の開室、ブックポストの増設などの整備を進め、学校図書館の充実、勤務時間数の増加など環境整備について一定の整備が進んできたことがあります。一方で、啓発については、今後も最優先で取り組む必要があることから、一番目にしたものです。次に、本編16～18頁に計画の体系図、関係図を新たに追加しました。次に本編32頁に、基本目標ごとに新たに参考指標を設定しました。以上が主な変更点です。

次に、策定機関ですが、令和5年6月に関係各課長、小・中学校長で組織する「宝塚市子どもの読書活動推進計画策定委員会」を設置し、計画の策定についての協議を行っています。

(藏野西図書館係長)

次に、「概要版」をご覧ください。本編を端的にまとめたものです。分かりやすいように、図書館を中心にして連携していく図としています。今回、計画の基本方針について、「啓発」を一番目としました。子どもたちが読書を身近なものと感じるためには、乳幼児期から、手の届くところに本がある環境が大切であり、「家庭における読書活動の推進」については、身近な親への啓発を第4期計画では特に力を入れていきたいと考えています。

学校との連携が多く、以前と違うところは、GIGAスクールの端末について、国の施策として、1人1台端末、タブレットを配布しており、図書館でもその活用についての研究をしていきたいというところ。システムの連携などはできていないため、ハードでないところで連携ができればと思っています。また、「多様な子どもたちへの支援」というところを今回から記載しました。国が作成した計画でも、以前は「多様な子ども」というのは、障害のある子どもや、外国語を母語とする子どもだけでしたが、今回、「多様な背景のある子ども」として、貧困家庭やヤングケアラーへの読書の支援を新たに盛り込んでおり、宝塚市の計画にも居場所やそれらの子どもたちへの支援について盛り込みました。

(上野委員長)

ご説明ありがとうございます。また、分かりやすく資料にまとめていただき、ありがとうございます。

では、計画案についての意見交換を行いたいと思います。事前にお送りいただきました皆さんからのご意見も事務局でまとめていただき、印刷したものを配布しております。いただいた意見の説明をしていただき、追加があれば続けてお願いします。

(永尾中央図書館長)

それでは、ご欠席の方のご意見を代読いたします。

まず、細田委員のご意見です。

(代読/要約) 私は視覚障碍の方のための音訳ボランティアに携わっているので、障碍児や多様な子どもたちへの取組に関心があり、強化して頂きたいと思っています。様々な障碍のために、読書活動が困難だったり、図書館に来館することが難しい子どもたちのために、乳幼児期の読み聞かせ用の絵本や児童書、成長段階に応じた司書の方の推薦の本、教科書などのデージー図書やCD版を作成し、お届けできれば、障碍のある子どもも読書活動によりアクセスしやすくなるのではと考えます。先日、芥川賞を受賞された市川沙央さんも障碍の有無にかかわらず「読書バリアフリー」が進むことを訴えられています。今後引き継ぐ課題として、支援が必要な子ども、多様な子どもたちの読書機会の確保を重点取組として挙げられているので、その一環として、デージー図書やCD版の充実も考慮して頂ければと思います。これらの取組のために、ボランティアとの連携・協力をより一層推進し、図書館側には、ボランティアを特別支援学校など関係施設に繋げて頂けるよう、お願いしたいと思っています。

(上野委員長)

細田委員のご意見は、最後の3行にまとめられているかと思います。

(永尾中央図書館長)

次に、谷内委員のご意見です。

(代読/要約) 子どもが赤ちゃんの時には図書館で借りた本を読み聞かせをしたりしていましたが、大きくなるにつれ図書館に出向く機会が少なくなりました。しかし、小学校に入り、夏休みの宿題の読書感想文で、子供たちの読解力のなさに愕然としました。本をただ読むだけで内容を理解しておらず、本を読まないことが国語力にも影響を及ぼすことが分かり、正直焦りを感じました。子供たちからは本を読むことが楽しいと思わないとも言われました。他のお母さんもやはり皆さん読書感想文でつまずいていたと言っていました。

宝塚市は図書に関してボランティアや支援センターなど様々な読書活動をされており、今までそれを使用しなかったことに後悔しています。ただ、最近はフルタイムで働く親も多く、そのような場所に行くことも出来ないといったことも現実です。今は電子書籍というものが主流になってきています。今後インターネットなどで図書の貸出ができるようになれば、親も含め子供たちにもより身近なものになるのではないかと思います。

(上野委員長)

谷内委員のご意見は、ご家庭のリアルな状況、お声をまとめていただいもので、参考になる部分が非常に多いと思いました。私見ですが、計画を策定するとき、専門家や職員だけではなく、保護者の方に入っていただくことで、「家庭における読書の推進」というところが実証できるのではないかと思います。

(永尾中央図書館長)

続きまして、山崎委員のご意見です。

(代読/要約) 新型コロナウイルス感染症が流行した際も、健康センターでの集団健診時に絵本を手渡ししている取組を継続実施したことは良いことだと思います。また、市立図書館で貸出冊数上限を1人10冊から15冊までに変更したこともよいことだと思います。これらの取組を継続し、本に興味を持たせる、読書の習慣化について、図書館、市内小学校、中学校、高等学校と連携して取り組んでいけるネットワーク作りを構築していただきたいと思います。また、近隣市町村の図書館との連携も強化されることを期待します。

(上野委員長)

学校図書館とのネットワーク、近隣市町村図書館との連携などを強化していただきたいというご意見ですね。

(上野委員長)

それでは、出席されている委員に、ご自身のご意見をお願いします。

(三浦委員) ※別添参照

子どもが少し破った本などについては、すぐに弁償していただきではなくて、ある程度は図書館で対応しますなどが分かりやすくされていれば良いかと思います。

施設の広さは限られているので、この時間は、子どもの泣き声はご容赦くださいということルールとして決めて、その時間帯は子どもがぐずっても本と触れ合うことができるような時間を区切る対策も有効かなと思いました。

幼児が破損した本について、館としてどう対応するかをどこかに明記しておく、安心できるのではないかと思います。図書館に足を運びきっかけとしては、中央図書館であれば館内から阪急電車がよく見えるなど、きっかけは何でもいいのですが、幼い時から図書館を日常の行動範囲に置き、本と触れ合う機会を多くしておくことが、将来的に、読書を身近な存在にしてもらうことに繋がると思いましたので、図書館という場所が居心地の良い場所、居心地の良さを共有させる施策に力を入れることが大切ではないかと思いました。コロナ禍でも、かみしばいの動画やデータで送信することが充実していたかと思いましたので、加えて、足を運びたいけれど、足を運んでいない層に、どういうふうに訴えたらよいかというところで、意見をまとめました。

(上野委員長)

三浦委員のご意見「居心地の良い空間」とは、小さなお子さんがある方たちにとっての居心地の良い空間であると受け取りましたが、それでよろしいでしょうか。

(三浦委員)

子どもの読書活動推進計画というところで、子どもが小さい時から図書館に行きやすくするにはどうしたらと考えましたので、今回は、子どもというところ、子どもということは親もですが。

(上野委員長)

親子で居心地が良い空間ということですね。時間については、どんなふうにお考えなのでしょう。平日の何時くらいであるとか。

(三浦委員)

かみしばいなどのイベントがあったら、その前後などは設定しやすいのではと思いますが。どうしても親のコントロールが効かない状態で泣いたりするので、この時間帯だけは、子どもがわいわいするかも知れませんという時間があれば、本を選んだりする時間を楽しめるのかなと思います。優先時間のような時間があれば、図書館に親しみやすくなると思います。

(上野委員長)

事務局にお聞きしたいのですが、子ども向けのイベントの際に、子どもが泣いて一般の方に迷惑がかかることなどはあるのでしょうか。

(永尾中央図書館長)

中央、西図書館ともワンフロアになっていて、親子での来館も多く、実はいつも騒がしいため、静かに本を読みたい方の方が遠慮している状況です。今のご意見のように、子どもが騒ぐと周りの方の目が気になるとも聞きますので、この時間帯はOKということができるかどうか検討してみたいと思います。

(藏野西図書館係長)

西図書館では、「子育て応援 託児サービス」ということで、第2、第4金曜日の10時からと11時から各1時間、お子さんをお預かりします。対象は1歳以上の未就学児で定員は各回4人です。この間、保護者の方はゆっくり読書をされています。ご自身が読みたい本ではなくお子さんの本を選ぶ方が多い状況です。幼稚園へ行く前のチャレンジとして利用される方も多く、このサービスによって、子どもが親と離れたときの様子を初めて見るという方もいました。保護者が図書館で過ごすことは、子どもにも良い影響を与えるのではないかと思います。

(藤野西図書館係長)

現実には、けっこう騒がしい状況です。子どもが泣いている時もありますが、そんなときでも利用者の

方は怒るようなことはありません。多くの図書館でもそのような状況のようです。図書館に行けば周りの方に迷惑をかけるのではないかと考えている方は多いとは感じますので、そういう方に対して、どういうPRができるかを考えていかなければいけないと思っています。

(藏野西図書館係長)

保護者の方は、どの時間帯が行きやすいと考えているのでしょうか。

(三浦委員)

家庭によって様々かと思えますので、図書館側で設定していただければ、その時間に来られるかと思っています。子どもが本を破損した場合はどうですか。

(永尾中央図書館長)

少し破った場合などは、修理もしますが、そのまま結構ですとお伝えしています。それを公式にはオープンにしていますが。

(藤井委員)

西図書館の託児の件はボランティアの対応ですか。保険は加入していますか。

(藏野中央図書館係長)

はい。(有償) ボランティアで、保険も加入しています。

(上野委員長)

次に、林委員お願いします。

(林委員) ※別添参照

質問ですが、アピアなどで、読書の啓発ポスターを見ることがないのですが、今も実施していますか。

(今北委員)

学校では、全国の読書感想画コンクールを応募しています。ポスターは募集していないのでは。

(藤野西図書館係長)

奈良県では、読書啓発ポスターを募集し、それを図書館などのいろんな場所で掲示しているようです。計画に盛り込むことは難しいですが、子どもが読書をした気持になる良い取組だと感じました。

(上野委員長)

子どもたちへの意識づけにもなりますね。役所や図書館側で作るリーフレットなどだけではなく、子どもたちが作ったリーフレットやポスターがあってもいいですね。

続きまして、藤井委員お願いします。

(藤井委員) (要約)

- 「はじめに」のところ、対象数を盛り込んではいませんか？
- 「子どもの読書活動の状況」は、最新のものに更新しては。
- 「2 第3期計画の取組状況」ですが、「います」「ました」では、分かりにくいので別表として作成されては。また、定期的な報告は教育委員会と図書館協議会で、市民には？
- 「(2) 学齢期における取組」では、学校規模、実績等がわかるようにしては。
- 「読書活動が困難な子どもへのサービスの充実」ですが、要支援者数や多言語対象者数の推計でもあればいい。概ねの冊数も。
- 「第3章方向性と取組」に多く出てくる「リサイクル図書」は、単に「リサイクル図書」ではなく、「セレクトリサイクル本」「子ども読書活用リサイクル本」にしては。提供前に痛みや書き込み、配備にふさわしいかのチェックをしていることについての説明も必要では。

○「宝塚市ふるさと納税寄附金の使い道（令和4年度）」では

中央図書館管理運営事業費 7,500,000 円 図書購入費、西図書館管理運営事業 3,000,000 円 図書購入費とあるのですが、どこかで載せてもいいのでは。

（上野委員長）

藤井委員からのご質問については、後日で結構ですので、回答をお願いします。もし今、答えられるものがあれば、お願いします。

（藏野西図書館係長）

指標のところですが、他からの指摘もありましたので、見直しを考えています。

（藤野西図書館係長）

悩みながら文章や表にしているところがあります。例えば、GIGAスクールについては、端末は既に配布されていますが、どう活用するかについては見えておらず、志として計画に入れているものがあります。三田市の図書館では、学校と図書館を結んでおり、GIGAスクールの端末から、図書館の本を予約できます。

また、三田市もそうですが、電子図書館を運営しているところもあり、パスワードとIDを割り振って、GIGAスクール端末を使って、電子上で借りられるところもあります。導入している図書館に、コストと利用状況を伺いながら、導入する価値があるかを考えていきたいと思っています。

（藤井委員）

三田市はTRCの運営ですね。TRCは学校とも連携しているのですね。

（藤野西図書館係長）

（宝塚市立図書館は、来年度から）新しいシステムを導入しますが、「読書マラソン」という機能があって、自分が読んだ冊数を他の人と比較することができる機能が導入可能です。そういう機能もGIGAスクール端末で見ることができるかもしれません。

（藤井委員）

ボランティアで記載していますが、学校応援団があるのなら、そう記載する方がいいのではないですか。図書館は何か支援などはしていますか。

（永尾中央図書館長）

図書館ではなく、社会教育課が予算を取って、研修などを行っています。

（藏野西図書館係長）

図書館でも、年1回、図書館ボランティアの研修に出向き講師などを行っています。

（藤野西図書館係長）

ご指摘のとおり、私学に対しては殆ど何もできていないのですが、私学とのつながりを創っていくという志を記載しています。

（藤井委員）

私学も対象となりますし、特に、図書館は私学の方が充実している面があります。

（藤野西図書館係長）

細かい部分では、小林聖心女子学院は西図書館のすぐ近にあり、団体貸出や見学なども行っています。ビブリオバトルにも雲雀丘学園などの児童が参加することがあります。

（藤井委員）

今日視察した中山台分室ですが、「場貸し」をすることはどうですか。東京では、図書館と学校が、同じ部屋を使って併設している例が多い。平日に、閉まっている日もあるのなら、学校が使うこともできればいいのではないかと思います。

(永尾中央図書館長)

ご提案としてお聞きしました。

(上野委員長)

ここで予定の時刻を過ぎました。本日は、視察もありいつもの会議に比べて長時間となっています。ご予約等のある方は途中退席も可能とします。

今の藤井委員のご意見は、答えられる範囲でお答えいただきたいと思います。

最後に、私の意見です。※別添参照

藤井委員の意見にもありましたが、具体的な数字がデータとして欲しかったという印象です。また、図書館のソフト面は充実していると思うのですが、市の財政が厳しいため、ハード面では期待ができない状況であると聞きました。しかし、国立科学博物館が行ったクラウドファンディングなどの方法もあると思います。宝塚市には本に興味がある市民がたくさんいて、図書館の充実を望んでいる市民もたくさんいると思いますので今後は、クラウドファンディングや寄付なども視野にいれてはどうでしょうか。

では、今北委員、お願いします。

(今北委員)

本日は公務により遅れまして、中山台分室に行けなかったことが残念でした。実は、先日、西図書館の皆さんが西山小学校に見学に来ていただき、学校応援団の方の読み聞かせを見学させていただきました。本当に子どもたちは楽しみにしていて、子どもたちが歓声をあげて楽しんでいる様子を見てもらいました。子どもたちの読書活動について、この子ども読書活動推進計画にたくさん載せていただいています。地道に行っていけないとなかなか定着しないと思います。低学年のうちは、「おしりたんてい」や「かいけつゾロリ」などの本を手にとって読むのですが、3、4年生になると、本を読まなくなってしまう。様々な原因があって、西山小学校では、塾に通いだすと本を読まなくなってしまう。学校が終わってから塾へ行って、塾の宿題をして、学校の宿題をしたら、もう12時くらいになってしまう。学校の20分休みや昼休みに本を読むとか、週1回の「図書の日」ではゆっくり1時間本を読むことができますが、読みたいと思っても、なかなか時間が取れない現状で、先ほども、全国学力状況調査のことがありましたが、西山小学校では、読書の時間は少ないですね。でも、子どもたちは、本がとても大好きで、親から読み聞かせをしてもらった子どもがとても多いです。本は好きですが、読書をする時間がないことが子どもたちの現状かと思います。小さなころから、スイミングや英会話などたくさんの習い事をして分刻みのスケジュールでいる子どももいます。厳しい状況ですが、学校応援団の皆さんが、かみしばいや読み聞かせなど地道な努力をされています。学校で、ビブリオバトルを1～3年生対象に行いましたが、そのおかげ11月25日開催のビブリオバトル大会への参加者もできましたので良かったと思っています。

(上野委員長)

子どもたちは勉強やスポーツに忙しく、読書に充てられる時間の格差が激しいのですが、小さなときに読み聞かせをしてもらった子どもは、一旦読書から離れても、中学生、大学生、社会人になったときに、本の世界に戻る人が多いのではと思います。そう願いながら、これからも支援していただきたいと思っています。

(永尾中央図書館長)

林委員に質問したいのですが、日本語指導をされているということですが、日本語が読みにくい子どもに対し、図書館では外国語の絵本を集めています。他に何かありますでしょうか。

(林委員)

むしろ、日本語ですね。私は日本語教育を行っていますので、絵にインパクトがあって、言葉が長くない、簡単で、絵から興味を持ってもらえるような絵本を探しています。

(永尾中央図書館長)

日本語を教えているところとの連携や、団体貸出やリサイクル図書などで、そういうところに支援できれば、また違う展開があるのかなと思うのですが。

(林委員)

私が子どもと関わっているのは大阪市内で、第1拠点というところに所属していますが、淀川中学校内の図書館で不要になった本を貰って置いています。

(藤野西図書館係長)

日本語を母語としない子どもへの、学校での取り出し授業は宝塚ではどのくらいでしょうか。

(今北委員)

外国の子どもが多い地域が偏っているのですが、日本語ができない子どもについては、日本語サポーターが付いていて、授業のときに横に座って説明をしたり、取り出し授業などで勉強する活動をされています。良元小学校の校長をしているときに、ブラジル籍の子どもがいて、週2回取り出して一緒に勉強していましたが、今では日本語が話せるようになったと聞いています。小・中学校で日本語サポーターが付いています。小学校に入る前について、市立幼稚園では聞いたことがありません。

(上野委員長)

他に、事務局から何かありますでしょうか。

(永尾中央図書館長)

子どもの読書に関しまして、貴重なご意見をいただきありがとうございました。図書館協議会の皆さまのご意見を参考にさせていただきながら、計画の策定をしていきたいと思っています。この計画の策定スケジュールについて、簡単に説明いたします。

(上木西図書館長)

先程説明しました資料の裏面に簡単なスケジュール案を記載しています。

先日、教育長に説明をし、何点か宿題をいただきました。本日の図書館協議会の皆さまへの説明に続き教育委員会協議会への説明を行い、その後、市の最高意思決定機関である都市経営会議に付議を行います。1月に市議会への説明を行った後に、パブリック・コメントの募集を行います。概ね1月中旬から1か月間を予定しています。その後、意見の取りまとめ、反映を行い、3月には計画案を完成し、教育委員会協議会、都市経営会議、市議会への最終報告を行い、4月に、図書館ホームページ、広報誌で周知を行います。本日のご意見も反映できるものは採り入れたいと考えています。

(上野委員長)

委員の皆さんに於かれましては、これだけの量の計画書に目を通し、長文のご意見を事前に寄せていただき、ありがとうございました。こういう作業は時間的にも精神的にもかなり負担がかかりますので、この努力を汲み取っていただいて、ぜひ良い計画書を作っていただきたいと思います。

では、次に、「議事3」に移りたいと思います。委員の皆さんからでも、事務局からでも何かありまし

たら、お願いします。

(永尾中央図書館長)

図書館だよりやこれからの事業などについての資料を入れています。また、ご覧ください。

(藏野西図書館係長)

斉藤洋先生の子ども向け講演会のチラシを入れています。現在、申込受付中で、子どもの読書活動推進計画の関連事業として、西図書館が担当して毎年実施しています。12月10日に、東公民館2階ホールで開催します。子ども優先ですが、大人の方も申込できます。

(藤野西図書館係長)

次に、毎年開催している「ビブリオバトル」について、宝塚市の「ことばの祭典」という行事で、午前中は、「俳句バトル」で坪内念典さんを迎えて、小・中学生が作った俳句を競い合うものです。webでも投稿できる部門もあります。午後からは、図書館がメインで行うビブリオバトルで、観戦すれば面白いと思っていただけたと思います。今年は、小学生6人、中高生が5人と、いつもより中高生が多いので、面白い発表になるのではと思っています。

(永尾中央図書館長)

宝塚西高の山崎校長先生から図書館だよりを送っていただいています。宝塚西高等学校図書委員会が作成しています。他に今北委員からもお配りいただいた資料があります。

(今北委員)

西山小学校のオープンスクールと図工展が11月22日、23日に行われます。是非、西山小学校にお越しください。

(上野委員長)

他になければ、私の方から。前回の委員会でアンケートについて、色々ご意見が出ました。非常にご苦勞されてアンケートを実施されているかと思しますので、それをより活用できるよう、この協議会で考えてみてはどうかと感じ、議題として取り上げていただきたいと思ひます。続きまして、今後、予定されている事業について、事務局から説明をお願いします。

(永尾中央図書館長)

行事については、先ほどチラシでご説明しましたので、コンピュータ更新について、ご説明いたしません。

(近藤中央図書館係長)

図書館のコンピュータは、6年目となります。本来は、5年間の契約でしたが、再リースし延長しました。来年の4月に、新しいコンピュータに切り替えます。それに伴い、来年、3月20日から4月3日迄、コンピュータ更新、機器の入替等で休館となります。今回のコンピュータ更新は、公募型プロポーザルによる審査を7月から9月に行いました。審査結果については、ホームページにも載せています。今回の優先交渉権者で、採用するシステムは、NECネクサソリューションズ(株)のパッケージシステムです。現在のシステムのバージョンアップとなります。新しいサービスとしては、Line連携による本の予約や貸出、情報発信を予定しています。

(上野委員長)

では、次回の開催について、事務局から説明をお願いします。

(永尾中央図書館長)

第3回は、3月初め頃に開催したいと考えています。順調にいけば、パブリック・コメントが終了し、宝塚市子どもの読書活動推進計画（第4期）について、ご報告できる予定です。また、今年度の取組と来年度予算について、ご説明したいと思います。また、先ほど、委員長からご提案がありましたアンケートの活用についても、議題として取り上げたいと思います。開催につきましては、日程調整のご連絡をしますので、ご協力をお願いします。

本日は、中山台分室の視察から長時間に亘り、ご協力いただきましてありがとうございました。皆さまのご意見を活かせるよう業務に当たってまいりますので、次回もどうぞよろしくをお願いします。

（上野委員長）

本日はこれで閉会します。長時間お疲れさまでした。

添付資料：「宝塚市子どもの読書活動推進計画（第4期）（案）」についての意見

※欠席された委員及び藤井委員のご意見は要約して会議録内に記載

上野委員

「宝塚市子どもの読書活動推進計画（第4期）（案）」を拝見いたしました。

読ませていただいて感じたことは、これまで子どもたちが読書に関心を抱くために、非常に熱心に取り組んでこられたこと。コロナ禍を乗り越えて、その成果が着実に表れていることなどです。

一方で、疑問に感じたのは取り組みについて、しっかりと具体的に方策が記されている箇所と、そうでない箇所の差が激しい点です。

「支援します」「関心を深めるようにします」「研究します」「検討します」など前向きな言葉で綴られています。実際にはどのようにするのか、目標とするところは何か、などの具体的な施策が書かれていないのは計画書としては不十分な印象を受けます。

計画書に記したことがすべて実行できなくても良いので「挑戦する気持ち」を計画書に盛り込んでほしいと願います。

以下は本文を一読して感じた疑問点等です。

（2）宝塚市の状況

●また、1日当たりどれくらい読書をするかという質問には、半数以上が読書をする
と答えています。

※質問に対する答えとして不適切な印象を受けました。この行を含めて5行分の文章の再考が必要ではないでしょうか。小6、中3、のアンケート回答者数（分母）も必要ではないでしょうか。

（3）市立図書館の状況

●一方で、貸出を利用した子どもの人数は令和2年度に減少して以降、平成30年度の数値には戻って
いません。

※子どもの数の増減はどうなっているのでしょうか。分母を表記したうえで分析した方が結果に説得力
がでてくると思います。

第3章 方向性と取組

家庭からはじめる読書の楽しみ 読書環境の充実を

●家庭における読書習慣の啓発活動に努め、読書環境を整えやすくなるように家庭を支援します。

ア 啓発事業の実施

関係各課が独自に、また連携して保護者や子どもと関わる大人が、家庭における読書環境の大切さにつ
いて関心を深めるような事業を行います。

※家庭での読書環境は非常に大切だと思われませんが、具体的にどのようなアイデアがあるのしょう
か？乳幼児期や学齢期ほかに比較して内容が浅く感じられ残念です。

（1）市立図書館の取組

ア 図書館施設の整備及び資料の充実

（ア）誰もが身近な図書館を利用できるように、既存公共施設等の活用を進め、利
便性の向上に努めます。 ※具体的にいつまでにどれくらいの拠点を考えているのでしょうか？

（エ）電子書籍の利用などについて研究、検討します。

※電子化書籍の利用の検討も大切かもしれませんが、自動貸し出しシステムなどの

IT化の研究、検討も必要ではないでしょうか。

6 多様な子どもたち13の読書活動の推進

すべての子どもに読書の喜びを 多様な子どもの読書活動を支えます

(オ) 日本語を母語としない子どもが図書館を利用しやすくなる方法を研究し利用促進に努めます

※障がいのある子どもたちへの対応に加え、図書館のグローバル化が必要とされる時代に突入しています。具体的にどうするのでしょうか？例えば、本文にもありますように外国語（特にアジア圏の言語）の書籍の積極的な導入や、館内の表記を多国語にするなどの具体的な方策を示してほしいです。

林委員

読書の楽しみを知った子どもは、文字を通して自分の世界が豊かに広がっていくと思います。読書活動推進計画第4期案は、宝塚市の子ども達に読書の楽しさを知ってもらう工夫、計画が色々とされていると思います。

多様な子どもたちにも手の届くところに興味ある本が見つけれられる環境を引き続き整えていただきたいです。

質問ですが、小中高生を対象とした読書啓発ポスター募集はされていますでしょうか。

三浦委員

絵本リーフレットの作成や、司書による絵本紹介等、本の魅力をアピールする内容に関しては、とても充実していると思います。

現在の案に、さらに価値を加えるならば、「図書館＝居心地の良い空間」という点をアピールすることだと考えます。

個人的には、下記のように考える親もいると思います。

・子どもと図書館で本を選びたいけれど、館内は静かにしないといけない場所なので、子どもがぐずったとき（泣いたとき）のことを考えると躊躇してしまう。

・子どもが、図書館の本を破ったり壊したりしてしまわないか心配で、図書館の本に触れさせるのは億劫である。

上記のような不安を取り除く文言を追加することで、図書館へ子と共に足を運ぶ親も出てくると思います。施設の広さは限られているので、この時間は子どもの泣き声を気にせず本と触れあっても良い等、時間を区切る対策も有効かと思います。また、幼児が破損させた本に関して、館としてどう対応するのかをどこかに明記しておいてもいいと思います。

図書館へ足を運ぶきっかけとしては、中央図書館であれば、館内から阪急電車がよく見えるといった、そんな理由でも良いと思います。

幼いときから、図書館を日常の行動範囲に置き、本と触れあう機会を多くしておくことが、将来的に、読書を身近な存在にしてもらうことに繋がると考えますので、図書館という場所の居心地の良さを向上させる施策に力を注ぐことは大切ではないかと考えます。